

令和3年度普及活動実績集

だから好きです がんばる甲賀の農業 2021



滋賀県甲賀農業農村振興事務所農産普及課

甲賀農業普及指導センター

ユーカリ収穫指導

ぶどうの販売戦略について指導

トウモロコシの収穫風景

荒茶製造技術の指導

イチゴの定植指導

野生獣の侵入経路の確認

はじめに

新型コロナウイルス感染症が国内で確認されてから2年以上経過しましたが、その間に全国に感染拡大し緊急事態宣言が出された他、収束しかかったと思えば再びその感染の勢いが増すなど幾度となく収束、拡大の波を繰り返しています。その結果、国民生活や経済活動が制限されることとなり経済が停滞するなど、これまでに経験のない事態となりました。

農業分野でも、人々の移動の制限や活動自粛による飲食業等の落ち込みにより、多くの農畜産物の販売が低迷するなどの影響があり、いまだ多くの農畜産物はコロナ発生以前の状況には戻っていない状況が続いています。新型コロナウイルス感染症の一日も早い収束を心から強く願うところです。

このように、本年度においても新型コロナウイルス感染症への対応をとりつつ活動内容の制約等の影響も少なからずあった中でしたが、地域農業の持続的な振興を図るため、さらなる農業生産の維持拡大や農業所得の安定確保とともに農業・農村の活性化に向けて普及指導活動に取り組みました。

普及指導活動の実施にあたっては、『人づくり』、『産地づくり』、『地域づくり』を3本柱として、令和3年度に策定した「普及指導基本計画（計画期間：令和3～7年度）」に基づき、各普及指導員が対象や方法、目標等を明示した年度別計画を作成し、その目標達成に向けて日々の活動を展開しています。

本書は、令和3年度に取り組んだ普及指導活動について、そのねらい、活動内容およびその成果を課題別に取りまとめたものです。普及指導員の活動の状況をご承知いただき、今後の地域農業の振興を図るうえでの参考にしていただければ幸いです。

最後に、活動にご協力いただきました農業者や関係機関・団体の皆様に厚くお礼申し上げますとともに、甲賀地域の農業振興のため、今後とも普及指導活動に対しましてご支援ご協力をお願い申し上げます。

令和4年3月

甲賀農業農村振興事務所 農産普及課
課長 市井 広 樹

目次

1. 令和3年度普及活動の概要	・・・ 1
2. 普及活動成果事例	
(1) 「担い手（農業者）育成に関する支援 ～人づくり～」	
6次産業化部門の充実による経営の安定に向けて	・・・ 3
花き生産技術（キク類、枝物）の習得による経営安定	・・・ 4
荒茶製造および栽培技術支援による経営の安定化	・・・ 5
複合品目として加工用タマネギに取り組む農家の収量向上による産地の振興	・・・ 6
新規就農者のタマネギ栽培の収量向上	・・・ 7
新規就農者のイチゴ栽培技術の習得による収量確保	・・・ 8
ぶどう本収穫2年目における栽培支援	・・・ 9
(2) 「産地の育成・強化に関する支援 ～産地づくり～」	
水稻の高温耐性品種への品種転換誘導による品質の向上	・・・ 10
夏期ハウス内の昇温抑制対策による抑制キュウリ栽培の初期生育の確保と収量の向上	・・・ 11
新規果樹産地の育成と販路の確保	・・・ 12
グリーン花材（ユウカリ）産地の育成	・・・ 13
朝宮茶有機栽培研究会の活動支援を通じた栽培面積の拡大	・・・ 14
オーガニック米の単収向上	・・・ 15
トウモロコシサイレージの生産・利用体制の整備による収量および品質の向上	・・・ 16
(3) 「魅力ある農業・農村創出に関する支援 ～地域づくり～」	
話し合いから実践へ～集落営農の新たなチャレンジ～	・・・ 17
3. 表彰事業受賞の概要	・・・ 18
4. 参考資料	
(1) 令和3年度グリーンカルチャーこうか	・・・ 23
(2) 令和3年度普及現地情報一覧	・・・ 27

令和 3 年度普及活動の概要

令和 3 年度に策定される「滋賀県農業・水産業基本計画」の改訂作業が進められる中、令和 3 年 3 月に「滋賀県協同農業普及事業の実施に関する方針」が改訂されました。

これらを受け、甲賀地域の現状や将来予測を踏まえた担い手の構造と生産状況の将来像を描き「甲賀地域普及指導基本計画(令和 3~7 年度)」を策定しました。

本年度は、本計画の初年目として 18 の重要課題については個別計画（うち 9 計画が新規計画）を作成し、個々の計画やプロジェクト活動の計画的な推進と目標達成を目指し、普及活動を展開しました。

1. 「担い手の育成と競争力の強化」に関する支援

(1) スマート農業等の革新技術の導入などによる経営発展に向けた取組への支援

先進的な農業の経営体に対して、「次世代担い手支援事業」等を活用し状況把握に努めるとともに個別支援活動を通じて経営改善に向けた技術・経営指導を行いました。また、6 次産業化に取り組む集落法人や個別経営体に対して、課題に応じた専門家である 6 次産業化プランナーと連携して計画の実現に向けて支援しました。

今年度は、6 次産業化部門に取り組む大規模経営体に対して、6 次産業化部門の更なる経営発展を目指すため発展戦略会議の開催とともに、新メニュー、新商品、新品目の開発検討、6 次産業化部門の安全安心対策の実施に関して支援しました。

また、甲賀地域における「花き＋水稲」のモデル経営体育成のために、新規中輪ギク栽培農家に対して少量土壌培地耕によるキク年 2 作体系や露地枝物類栽培の技術支援を行いました。

(2) 稲麦大豆や飼料作物、露地野菜など土地利用型作物による水田作経営の強化支援

水稲・麦・大豆の収益性向上や、飼料作物、露地野菜などの導入を推進し水田作経営の強化を図りました。

特に、加工用タマネギによる複合経営に取り組む経営体に対して、本年産のタマネギ栽培では、病害虫・雑草防除の薬剤選定や防除適期の判定など、次年産のタマネギ栽培では、早期の排水対策の実践や定植適期の拡大につながる早植え栽培の導入に対する支援を行いました。

(3) 新規就農者の定着に向けた支援

新規就農相談は 15 人・延べ 25 回行い、3 名が滋賀県農業大学校就農科への就学を希望され、1 名が令和 4 年度に就農を目指されることとなりました（令和 3 年 12 月末現在）。

また、就農 5 年目までの認定新規就農者等（青年等就農資金等の活用者、農業大学校就農科修了生等）13 名に対して、経営研修や農場の巡回、相談活動を行い、栽培技術や経営指導を行いました。なかでも、就農直後の 4 名については、重点的に指導を行い経営の早期安定を図りました。

2. 「産地の育成と販売力の強化」に関する支援

(1) 需要に対応した米麦大豆の産地強化に向けた支援

水稲は、異常気象に即応した細やかな栽培管理の実施に向けての技術支援を行い、収量・品質の安定化を図るとともに、「みずかがみ」や「きぬむすめ」などの高温耐性品種への作付誘導を推進しました。

また、麦・大豆については、集落営農組織を中心に資料提供や現地指導を行い、排水対策の徹底や適期作業の実践を支援しました。

(2) 野菜、果樹、花き、茶の多様な産地の育成支援

野菜は、重点品目であるキャベツ、タマネギ、かぼちゃや「忍葱（しのぶねぎ）」など地域野菜ブランドである忍シリーズについて面積拡大や収量向上に対する支援を行いました。特に、抑制キュウリ栽培農家に対しては、夏のハウスの昇温対策として ICT バルブを活用した散水技術の普及により収量の向上を図りました。

果樹では、新たな品目（ぶどう、なし）の産地化を図るため、新規栽培者の確保と育成

を進めました。早期成園化軽労技術の導入や技術研修会の開催、個別相談を実施することにより、令和3年度までにぶどうでは18戸(10,844㎡)、なしでは11戸(4,794㎡)が新たに栽培を開始されました。

また、産地の安定的な継続発展を目指して甲賀地域ぶどう研究会およびなし研究会に対して栽培技術研修や、安定販売のために農協直売所や量販店など複数の出荷先の確保と出荷先調整のための農家組織構築に向けた話し合いを支援しました。

花きでは、短茎小ギク、加工用中輪ギクの生産拡大のほか、リンドウ、枝物などの新規作付けの推進を図りました。特に、枝物のひとつであるユーカリについては産地化を目指して、地域にあった品種の選定や市場との出荷規格等調整を図りながら、研修会や現地説明会を開催し新規栽培者の育成確保と技術支援を行いました。

(3) 環境こだわり農産物の生産拡大や、GAPの取組等安全安心な農産物生産への支援

環境こだわり農産物の生産に取り組む農業者に対して技術支援を行いました。

特に、水稲についてはJAこうか特別栽培米部会の活動支援を通じて環境こだわり農産物の生産拡大を図るとともに、オーガニック米生産者に対しては低単収の原因究明と改善策提案を行い収量向上に対する取組を支援しました。

茶については、土山地域では茶商業者(問屋)と生産者の結びつきによる取組が、信楽地域では生産者の有機栽培の志向が高まるなど、茶の有機栽培の取組が進みつつあります。

今年度は、朝宮茶有機栽培研究会に対して、実証ほの設置による有望技術の検証や有機栽培技術に関する情報交換会の開催、茶商や新規栽培者などへの参画要請など研究会の活動や組織強化について支援しました。

(4) 資源循環型農業の定着に向けた耕畜連携等の取組への支援

良質なサイレージ生産を行うため、耕種農家、畜産農家、コントラクター組織に対して、播種時期や品種の選定および耕畜連携の取組内での連絡体制の整備等、耕畜連携組織全体の生産・利用体制の再整備に関する支援を行いました。

3. 「持続可能で魅力ある農業・農村の振興」に関する支援

(1) 地域農業を支える集落営農組織の維持発展に向けた支援

集落営農法人に対して、地域や組織が抱える課題について、「地域診断」を用いて意見集約を行いました。また、取りまとめた意見をもとに、組織継承のための若手の参画方策や、収益向上対策など構成員が納得できる戦略づくりと、その実践活動について支援しました。

(2) 集落機能を維持するための話し合いの取組支援や実践活動など担い手を支える仕組みづくりへの支援

集落営農組織のない集落に対しては、あらゆる機会を通じて集落への働きかけを行いました。「人・農地プラン」の作成や、「地域診断」の実施などを集落に対して提案し、集落での話し合いを進めるとともに、話し合いにより合意された計画の実践に向けて支援を行いました。

(3) 野生獣による農作物被害軽減に向けた集落ぐるみの取組への支援

管内の獣害による農作物被害は、令和2年度の被害面積は約31ha、被害額は約1,190万円とピーク時の1割以下にまで大きく減少しています。より一層の被害防止を進めるため、獣害被害集落を対象に集落単位での被害防止計画の作成や人材育成を支援し、住民主体による獣害対策の取組に重点をおいた普及活動を行いました。

本年度は、集落獣害環境点検を新たに4集落で実施するとともに、被害集落や被害発生地域での地域別研修会を1回開催しました。

(4) 農業排水対策に関する農業者等の取り組みへの支援

農業排水対策では、情報紙による浅水代かきや止水等の啓発に加え、代かき・田植え時期に啓発パトロールや農業排水調査を延べ14日間実施しました。

また、農業系マイクロプラスチックの河川への流出防止のための広報啓発活動や、肥料殻流出防止対策の検討のための新肥料の実証展示ほを設置し環境負荷軽減に向けた取組を支援しました。

6 次産業化部門の充実による経営の安定に向けて

対象者 水口町 (有)R ファーム

【普及活動のねらい】

R ファームは、水田 107ha で水稲、野菜、花、果樹等の栽培、作業受託および加工品生産とともに、直売所等を経営する県下有数のメガファームです。今後の経営発展のためには、6 次産業化部門を充実させることが重要であるとの思いから、平成 30 年 7 月には直売所を移転するとともに新たに農家レストランを整備されました。



レストラン外観

しかし、6 次産業化部門の充実を図ったものの、発展戦略が明確でない、ヒット商品の不足、コロナ禍による売上低迷等の課題があり、これらの課題の解決を図るべく、コロナ禍に対する安全対策を早急に確立するとともに、リピーターや新規顧客に訴えかける新メニュー、新品目、新加工品の開発等に取り組みました。

【普及活動の内容】

6 次産業化部門発展戦略会議（以下「戦略会議」）の開催

6 次産業化部門の課題を整理し、今後の発展戦略を検討するため、生産部門と 6 次産業化部門の責任者と関係機関で、定期的に戦略会議を開催するよう誘導しました。

8 月に開催した戦略会議では、加工品開発担当や人員の確保、新商品の開発計画、プランナーの招へい時期等、現在 6 次産業化部門が抱える課題について検討しました。

新商品の開発

ヒット商品開発に向け、農家レストランの新メニュー、新加工品、新品目の開発のため、6 次産業化プランナーを招へいして開発方針を検討し、試作品の開発や販売戦略の検討等をすすめました。

安全安心対策の確立

コロナ禍に負けない 6 次産業化部門を確立するため、HACCP や各種のコロナ対策の円滑な実施を支援しました。

【普及活動の成果】

新商品の開発については、レストランの新メニューでは、秋ナス料理、直売所の新品目では、アイメック農法で生産した高糖度のトマトである「アイメックトマト」と、自社の栽培基準をクリアした高糖度のスイカである「あめだまスイカ」が開発できました。両商品とも売り上げが好評で、今年のヒット商品となりました。

コロナ禍により、特にレストラン部門の売上が低迷していましたが、事業を活用したコロナ対策整備や HACCP の衛生管理計画策定、「みんなでつくる滋賀県安心・安全店舗認証制度」の認証取得等の安全対策を速やかに実施したこともあり、客足は順調に回復しています。

当普及指導センターは、今後も R ファームと協議を重ねながら、6 次産業化部門が順調に発展できるよう支援していきます。

花き生産技術(キク類、枝物)の習得による経営安定

対象者 甲賀市甲賀町 Y氏

【普及活動のねらい】

Y氏は、甲賀地域で普及が進む中輪ギク栽培に早くから興味を持たれ、平成30年度末の一般企業の定年退職を機に「花き＋水稲」の複合経営を目指して就農されました。

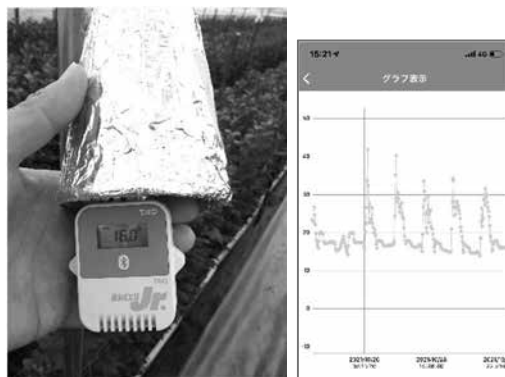
令和元年度は、JAこうか花卉部会の栽培研修会やほ場見学に参加して知識の習得に努められるとともに、花き経営開始に向け、施設等の準備を進めてこられました。

令和2年度は少量土壌培地耕による加工用中輪ギク（施設面積325㎡）に取り組み、令和3年度は施設を増棟（施設面積292.5㎡）し中輪ギクの出荷期間の拡大を図るとともに、露地枝物（ユーカリ）の栽培と出荷にも取り組みました。当普及指導センターは、Y氏が花き専用ハウスと露地を利用した「花き＋水稲」モデル経営体となるよう、中輪ギク栽培年二作体系と枝物の栽培技術の習得に向けて支援を行いました。

【普及活動の内容】

加工用中輪ギクについては、昨年度からの「盆前－11月下旬出荷作型」に加えて、増棟したハウスで取り組まれる「8月第4週－年末出荷作型」の栽培技術習得に向け、病虫害診断、電照による開花調整の徹底、年末出荷作型での加温管理、作型ごとの収穫適期の判断基準など、切り花品質に直結する重要な作業が確実に行われるよう、現地での指導をこまめに行いました。

ユーカリについては、品種ごとの生育速度や発生する病虫害の傾向について現地とともに確認し、これらの特徴の理解を促すとともに、収穫・出荷調製作業について、手伝いに来られている集落の女性との作業分担が整理されるよう作業台の配置等について助言し、実演を交えながら説明しました。



温度データロガーを用いて管理状況を共有（年末出荷作型）

【普及活動の成果】

以上の取組の結果、中輪ギクでは、収穫遅れによる蕾の開きすぎや花首徒長による草姿不良等が見られず、花束加工業者が求める良品質なキクを生産することができました。これにより、7、8月は目標出荷率（植付本数に対する出荷本数の割合）である85%を達成（86.5%）することができました。11月～年末出荷分については、栽培終盤の暖房機の不調により一部が収穫できず目標の達成は困難となりましたが、作業は計画通りに実施でき、栽培に手ごたえを感じておられました。ユーカリについても、11月から収穫を開始され、花き卸売市場からは、切り枝品質良好との高い評価が得られました。

対象が持続的な「花き＋水稲」モデル経営体となるよう、引き続き支援していきます。



中輪ギク「神馬」の
出荷調製作業

荒茶製造および栽培技術支援による経営の安定化

対象者 甲賀市土山町 M氏

【普及活動のねらい】

M氏は、就農から10年ほど父親の茶園管理を手伝われ、令和元年から本格的に本人が経営主となって茶業経営を継承されました。

しかし、自ら茶業経営を行う中で、栽培管理や荒茶製造での技術不足の一面もあって、令和2年度には病害虫の多発や製茶品質の低下により経営への影響がみられました。

そこで、茶業経営の安定化を図るため、病害虫の発生に合わせた防除方法や荒茶製造の工程管理などの基礎的な栽培・製造技術の習得を支援しました。

【普及活動の内容】

荒茶製造技術の習得支援

荒茶製造は、茶園で丹精込めて育てた茶葉を荒茶に加工して販売するための大変重要な作業です。製造された荒茶の品質は販売価格に大きく影響し茶業経営を左右します。そこで、農業技術振興センター茶業指導所主催の一番茶製造研修会への参加に加え、M氏の茶工場で製茶機械の操作を実演指導するなどして、一定品質で荒茶を製造できるよう、製茶工程の管理についての知識と技術の習得を支援しました。



一番茶製造研修会における
荒茶製造技術の指導

栽培管理技術の習得支援

M氏が管理されている茶園ではクワシロカイガラムシの発生が多く、吸汁害による収量低下がみられていました。クワシロカイガラムシは、殻に覆われているため、幼虫が殻からふ化した時期が防除適期となります。M氏とともに定期的にふ化状況を観察し、防除適期判断法や防除法について指導しました。その他、夏秋期に多発する病害虫を中心に、M氏と発生状況を確認しながら、農薬の選定や防除法についても指導しました。



茶園の枝条管理の指導

また、茶栽培では茶芽の整枝など、枝条管理が茶樹の生育に大きく影響します。枝条管理が適期に適切な位置で行われるよう、資料等を用いて技術の習得を図りました。

【普及活動の成果】

荒茶製造については学ばれたことを実践され、一番茶、二番茶ともに製茶品質が安定し、生産した荒茶は全て販売ができました。また、クワシロカイガラムシを始めとした病害虫防除についても適期の実施により、昨年度に比べ病害虫被害が抑えられました。その結果、今年度の栽培管理の集大成となる秋芽の生育は旺盛で、来年度の一番茶の収量、品質も期待できます。今後も引き続き経営の安定化に向けた支援を実施していきます。

複合品目として加工用タマネギに取り組む農家の 収量向上による産地の振興

対象者 大規模タマネギ生産者

【普及活動のねらい】

管内の加工業務用タマネギ生産者を対象とした令和2年までの取組において、重点指導農家3戸を対象に病害虫と雑草防除を適切に実施できるよう活動した結果、収量が10aあたり4tを超えるモデル農家ができました。また、早植え栽培の実証により、ムギの播種作業との競合が回避でき、従来の作型と同程度の収量を確保できることが確認できました。令和3年産の栽培においては、タマネギ産地の収量の底上げを図ることを目的に、農家数40戸、総作付面積約8haの約6割を占める30a以上栽培している生産者7戸に対して収量向上に対する支援を行いました。

【普及活動の内容】

令和3年産タマネギの栽培については、べと病やアザミウマ類の発生状況を現地巡回により把握して、発生状況に対応した薬剤の選定や防除時期など適切な病害虫防除が実施できるよう支援を行いました。

また、雑草対策については、発生状況に応じた除草剤の選択と手除草を組み合わせた作業等の実施について情報提供を行いました。

令和4年産タマネギの栽培については、麦との作業競合が予想される生産者には、早植え栽培を提案し、早植え栽培が適期に実施されるよう排水対策等各作業のタイムスケジュールを示しながら現地巡回・指導により早期の排水対策の実施を促しました。

【普及活動の成果】

令和3年産タマネギについては、対象者の目標平均収量である10aあたり3.6tには届かなかったものの、治療効果のある殺菌剤を中心とした病害虫の防除により、病害虫被害が大幅に改善され、10aあたり4t以上の生産者もありました。雑草対策については、除草剤の特性を考慮した効果的な散布とそれを補う手除草を組み合わせた結果、スムーズな機械収穫が実施できました。

令和4年産タマネギについては、令和3年産の反省を踏まえ、早植え栽培の導入や、排水対策を確実に実施したことで、定植作業が適期に完了できました。

今後も、今年度の取組で検討した効果的な病害虫と雑草に対する防除体系を指導するなどタマネギ産地の収量の収量向上に向け、支援を継続します。



適切な雑草防除で大型ピッカーによる拾い上げも円滑に実施



排水対策により、適期に定植を実施

新規就農者のタマネギ栽培の収量向上

対象者 甲賀市甲賀町 N氏

【普及活動のねらい】

N氏は大学卒業後、平成25年に農業法人に野菜部門の主担当として就職就農されました。令和2年4月に独立され、甲賀町隠岐地先にて就農されました。栽培品目は、露地野菜としてタマネギ、ジャガイモ、ニンジン、ユウガオ、レンコンと水稻を組み合わせた経営です。タマネギ以外の野菜については、販路が既にあり、次作以降についても現状程度の面積で作付けされる予定ですが、タマネギは加工用としてJAへの出荷に向けて今後、面積拡大を計画されています。

しかし、タマネギは令和2年産については圃場選定（排水対策等）や病害虫・雑草対策が不十分であったことに加え、梅雨期の長雨による腐敗も重なり、収量は就農計画の目標である10aあたり3t台に届きませんでした。近年、信楽町地先に就農された方で10aあたり4t台の事例もあることから、今後経営の柱になるタマネギ栽培について収量向上を図る支援を行いました。

【普及活動の内容】

圃場準備が間に合わず定植遅れによる収量減少を防ぐため、圃場選定と排水対策（排水路の確保・作業の早期実施等）について支援しました。

タマネギの主要な病害虫であるべと病・アザミウマ類について、発生してからの防除が困難なため、予防的防除や発生初期の防除が実施できるよう、また、雑草による生育抑制を発生させないために、除草剤の特性（雑草抑制剤と選択制薬剤の違い等）を理解し、除草剤の効果が十分発揮できる散布が実施できるように現地巡回を組み合わせ支援しました。

令和4年産タマネギの作付けについて、水稻受託作業とタマネギの管理作業など他品目との作業競合の改善のため早植え栽培の導入を促しました。



令和4年産タマネギの定植作業
（早植え栽培）

【普及活動の成果】

令和3年産は、現地巡回指導を定期的に行いましたが、水稻受託作業との競合により防除作業が遅れたり、異常なほどの早い梅雨入りによるべと病の大発生により残念ながら収量が目標に届きませんでした。このため改めて令和4年産に向けては、タマネギの管理作業が遅れないよう水稻受託作業とのバランスを考慮して圃場準備や排水対策を早々に実施しました。また、タマネギの作付けを早めるため、すべて早植え栽培に変更・導入し他栽培品目との作業競合の改善を図りました。今後、適期除草剤の活用による雑草対策と体系防除によるべと病対策により収量向上に向けた支援をします。

新規就農者のイチゴ栽培技術の習得による収量確保

対象者 甲賀市土山町 K氏

【普及活動のねらい】

K氏は、長年、農業法人に勤務しながら、農業に強い魅力を感じてこられ、自らの経営がしたいと思われていました。この夢を叶えるため、イチゴ農園で研修を受けながら準備を進められ、令和3年4月に就農されました。

しかし、作業の経験はあるものの、自ら生育を判断し栽培した経験が無い上に、就農直後から育苗ハウスや本ぽハウスの組立の施工管理をしなければなりません。そこで、必要な定植苗や果数を確保できるよう、生育や病害虫発生程度に応じた自らの判断による栽培作業を支援するとともに、栽培施設を定植適期までに施工できるよう施工管理を支援しました。

【普及活動の内容】

栽培開始にむけての計画策定と実施支援

6月上旬までは、親株用種苗を確実に確保し、育苗に必要な技術の習得を図るため、栽培管理リストを作成し、育苗作業の要点を共有しました。また、ハウスの施工状況を共有し、作業に遅れが見られるときは、施工業者と再度計画を確認するよう促しました。

栽培管理支援

7月上旬に本ぽ用苗の採苗を開始されてからは、ほぼ毎週、現地で葉数管理や培養液管理の技術習得を支援しました。加えて、病害虫に対して適切に防除ができるよう病害虫の発生状況や作用機構を踏まえた農薬使用を提案しました。9月中旬の定植に向けては、生育や気候に応じた栽培管理を自身の判断で実施できるよう生育状況を現地で共有し、定植後は株の草勢に応じた着果管理についても確認しました。併せて、病害虫の発生状況を踏まえた薬剤の選定と複数薬剤のローテーションによる防除を提案しました。さらには、栽培管理リストによるチェックを継続することで、必要な作業が実施できているか定期的に確認し、未達成の項目がある場合はその都度改善方法を検討しました。

【普及活動の成果】

足繁くハウスを訪問し各作業の状況を確認してきましたが、目標の親株数と定植用苗数が確保でき、ハウスの施工については予期せぬトラブルがあり当初計画から遅れたものの、9月中旬からの定植に間に合うことができました。そして、12月から順調に収穫することができました。また、チェックリストに基づき、栽培管理や病害虫防除を定期的に振り返ることで、遅れていた作業や実施すべき内容を再確認し、次年度に向けた改善策を検討することもできました。今後も、安定した経営に向け、支援を継続します。



定植時の注意点について説明



着果管理について説明

ぶどう本収穫 2 年目における栽培支援

対象者 湖南省夏見 N 氏

【普及活動のねらい】

N 氏は湖南省夏見地域で平成 30 年度からぶどう栽培に取り組み、今年から本格的に収穫を始められました。しかし前年度の初収穫では、枝葉の管理や病害虫の診断が遅れ、果実の収量や品質を落とす結果となりました。そこで、ぶどうの栽培管理技術の習得および向上をねらいとして、栽培管理の実演指導や注意を要する病害虫の対策について、知識の習得を支援し、ほ場での病害虫診断指導を行いました。

【普及活動の内容】

品種別の枝葉および結実管理技術の習得指導

栽培品種ごとに副梢管理や摘粒方法、葉色を参考にした追肥の可否の判断方法等について指導しました。また、適期作業の実践のために、各作業のチェックリストを用意し、チェックリストに作業日を記入してもらうことで、作業状況を N 氏と共有しながら指導を行いました。作業後は N 氏とともにほ場を確認することで、改善点を精査し、栽培管理技術の定着とともにさらなる技術の向上を図りました。

病害虫防除技術の習得指導

昨年は病害虫被害により収量や秀品率の低下がみられました。そのため、本年度は各月ごとに発生が予想される病害虫をリストアップし、各病害虫の発生条件、症状、防除方法等について資料を用いて説明し、ぶどうにおける病害虫の知識習得を支援しました。

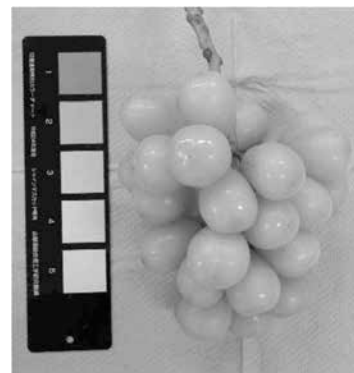
また、各病害虫の発生時期にほ場を巡回し、病害虫が確認された場合には、N 氏に配布した資料と突合しながら、自分の目で確認してもらうことで、病害虫診断技術の向上を図りました。



各月ごとの注意すべき
病害虫について説明

【普及活動の成果】

ぶどうの各樹の主枝長に応じた房数の基準や房重を定め、うえで摘粒や摘房作業を行ったことで、目標としていた 10a あたり 350kg の収量をほぼ確保することができました。病害虫防除については、本年度も病害の発生が多少みられたものの、自身で異変に気づき、防除対応されるなど、着実に病害虫診断技術を習得されているように見受けられました。今後も、今年度の反省を生かしながら、ぶどうの栽培管理技術の習得に向け、支援を行っていきます。



収穫された
シャインマスカット

水稻の高温耐性品種への品種転換誘導による品質の向上

対象者 管内水稻生産者群

【普及活動のねらい】

管内の水稻 1 等米比率は、長年県平均を上回っていましたが、令和元～2 年度は県平均を下回り、品質低下がみられたところであり、改善が強く望まれています。品種により差が見られ、「みずかがみ」は毎年高い品質を維持していますが、「コシヒカリ」「キヌヒカリ」「日本晴」の品質が安定していないのが現状です。

そこで、関係機関と連携して、「コシヒカリ」の品質向上や、「キヌヒカリ」、「日本晴」から「みずかがみ」やその他の高温耐性品種への品種転換を誘導することで、管内の米の品質の向上を図ることをねらいとしました。



早生品種の現地研修会の様子

【普及活動の内容】

「コシヒカリ」の品質向上対策

JA と連携し、啓発資料の配布や現地研修会の開催等により、「コシヒカリ」の生産者を中心に基本技術の励行を呼びかけました。特に、今年は斑点米カメムシ類の発生量が 7 月中旬に急上昇したため、緊急防除情報を全農家に配布しました。

「キヌヒカリ」「日本晴」から高温耐性品種への転換

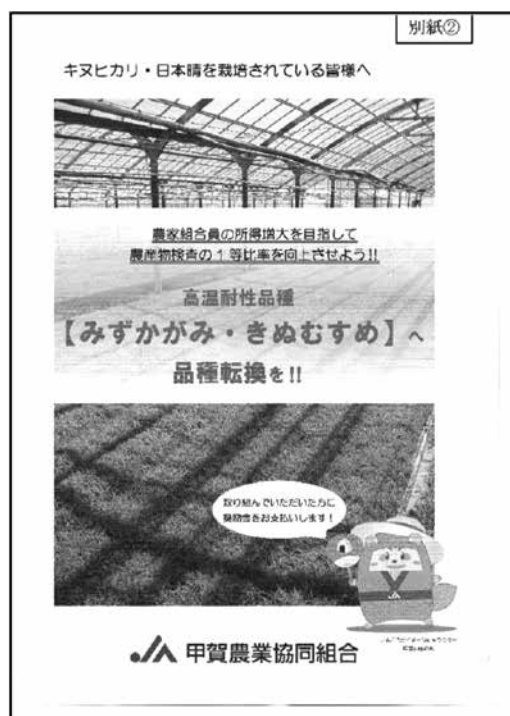
啓発資料を活用し、「キヌヒカリ」や「日本晴」の生産者に対して、「みずかがみ」などの高温耐性品種への品種転換を進めました。特に、「日本晴」の作付けの多い 6 つの集落に対しては、11 月下旬から 12 月中旬に JA が主催して行った農談会等に参画し、重点的に働きかけました。

【普及活動の成果】

稲作情報や研修会等を通じた情報提供や現地指導により、効果的なカメムシ防除や生育に応じた栽培管理など、各地で地道な品質向上に向けての取組が行われました。結果、「コシヒカリ」の品質は 1 等米比率が 77.7% (1 月現在) と前年の 68.3% より改善し、県平均を上回る見込みです。

品種転換に関して、「日本晴」の品質低下は生産者の問題意識も高く、他品種への転換が前向きに検討されています。

当普及指導センターは今後も JA と連携し、水稻の 1 等米比率向上に向けての活動を展開していきます。



品種転換誘導策の資料

夏期ハウス内の昇温抑制対策による

抑制キュウリ栽培の初期生育の確保と収量の向上

対象者 抑制キュウリ栽培生産者

【普及活動のねらい】

管内の抑制キュウリ栽培は、7月下旬より定植が行われていますが、キュウリにとってこの時期のハウス内の温度は非常に高くなってしまいます。このため、高温対策として遮光資材の利用やサイド・天窓の開閉と合わせて、キュウリに直接散水して温度を下げる「葉水」が実施されています。葉水は生産者がハウス内の温度を確認し直接バルブを操作して行われていますが、夏場のハウス内の常駐が困難なことから適切な実施が出来ませんでした。そのため、初期の生育や着果の不良、品質の低下により初期収量が伸び悩んでいました。そこで、葉水の自動化を図るため温度により開閉設定ができる電磁弁（ICTバルブ）の導入による初期生育の確保と収量の向上に向けて支援しました。



ICTバルブの設置指導

【普及活動の内容】

ICTバルブの技術実証と推進

生産者の理解を深めるため展示ほを設置し昇温対策効果を間近で体験することでICTバルブの設置への誘導・推進を図りました。推進については、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ集合研修等は実施せず個別にハウスへ伺い説明を行いました。

ICTバルブ設置と活用

ICTバルブを導入した農家に対し、その機能の活用方法や各ハウスの生育状況に合わせた葉水の実施時間と温度設定について支援しました。

【普及活動の成果】

推進の結果、5農家がICTバルブを設置されました。また、ICTバルブを今作導入された農家の10aあたりの収量は、導入前に比べ平均で32%増加しました。ICTバルブを活用した農家からは、曇天から急な晴天等によるハウス内の気温上昇に対し、ICTバルブが機能し高温による障害が回避できたとの評価を頂きました。予定では、9月上旬でICTバルブの活用は終了する予定でしたが、引き続き残暑が厳しいことから9月いっぱいまで活用された生産者もおられました。今後、引き続きICTバルブの推進を図るとともに設置・活用面においても支援を行っていきます。



ICTバルブの設置状況

新たな果樹産地の育成と販路の確保

対象者 新規果樹栽培者および栽培希望者

【普及活動のねらい】

平成 28 年度から、当普及指導センターと関係機関がぶどうとなしの栽培者を募り、新たな産地づくりを進めています。今年度は、ぶどうでは、量販店での販売を視野に入れた規格に合わせた房づくりについて、なしでは樹幹拡大と側枝更新のための肥培管理について技術指導を行いました。また、ぶどうとなしの新規栽培者の確保と農協直売所や量販店など複数の出荷先の確保と出荷先調整のための組織化に向けて支援しました。

【普及活動の内容】

ぶどう：規格に合わせた房づくりのための技術習得

規格に合わせた房づくりのために、栽培管理が始まる 4 月当初に品種ごとに目標とする房重と着粒数の基準を研修会で統一しました。栽培開始後は、房づくり時期に集合研修を行うとともに個別巡回で技術習熟のための指導を行いました。

なし：樹幹拡大と側枝更新のための肥培管理指導

更新用の側枝養成のために、予備枝や主枝に付いた花芽を開花前にすべて取り除く指導を春先に行いました。生育期間中は、不必要な芽を取り除くことや花芽着生を促す誘引など、12 月のせんだい講習会では側枝更新と予備枝を残す指導を行いました。

販売促進のための農家組織構築に向けた支援

農協直売所への過剰出荷を懸念する声が生産者の共通する声として出ていました。そのため、本年度の販売状況と次年度以降の販売意向の聞き取り結果をもとに、直売所への出荷の在り方や量販店への共販、販促活動を行うための生産者組織設立に向けて支援しました。

新規栽培者確保研修会の実施と栽培開始指導

関係機関が協力して新規栽培者を募る研修会の開催が定着しました。今年度は、関係機関窓口を設置したチラシや市・農協広報を見て 35 名の参加者があり、栽培希望農家に対して個別指導を行いました。また、当普及指導センター広報誌と SNS でも収穫と直売所での販売の様子などを広報し栽培者拡大の気運を醸成しました。



共販のための生産者組織設立
に向けた話し合い

【普及活動の成果】

生産量については、ぶどうは目標 6.65t に対して 6.36t、なしは目標 4.02 t に対して 4.29 t とほぼ目標通りの生産量が得られ、農協直売所や各戸の庭先販売などで順調な売れ行きでした。これまでの取組により、新たにぶどうとなしを栽培された農家はぶどうは 18 戸 (10,844 m²)、なしは 11 戸 (4,794 m²) となりました。また、安定販売にむけた生産者組織の設立についても賛同が得られ、世話役農家も選出されました。今後も、栽培面積の拡大を行うとともに、生産者組織の運営支援と量販店への共販に向けた支援を行います。

グリーン花材(ユーカリ)産地の育成

対象者 ユーカリ栽培農家

【普及活動のねらい】

花き業界ではグリーン花材の一つであるユーカリの需要が大きく伸びており、花き卸売市場や大手フローリスト（実需者）から大消費地に近い本県での生産の提案を受けていました。

当普及指導センターは、水利が悪い（水が入らない）ほ場や不整形で作業性が低いほ場等、作付け条件の不利な農地を活用できる品目としてユーカリに着目し、令和元年度から各種会合や研修会を通じて作付けを推進し産地化を図ってきました。令和3年度は11経営体（令和2年開始：8経営体、令和3年開始：3経営体）で栽培され、ユーカリ栽培定着に向けての技術支援を行いました。

【普及活動の内容】

作付け2年目の栽培者に対しては、現地巡回を行い病害虫の発生状況を把握するとともに、注意が必要な病害虫や薬剤ローテーション例を示し、定期防除の実施を促しました。

作付け初年目の新規栽培者に対しては、定植準備研修会を開催し、排水対策の実施や植え付け間隔等について説明しました。定植後は現地巡回し、摘心、倒伏防止のための支柱立て等について助言し、必要な作業の理解と習得を図りました。

さらに、全員を対象に出荷前研修会を開催し、収穫期の判断方法および出荷調製の手順について説明したのち、生産者ごとに現地で研修会の内容について実演を交えながら指導を行いました。

また、昨年度に引き続き新規生産者の掘り起こしに向けた説明会を開催しました。開催にあたっては関係機関の広報誌等で開催を案内し、広く周知を図りました。



現地での収穫指導



結束されたユーカリと
出荷箱

【普及活動の成果】

以上の取組の結果、今年度、管内では約1.8haで栽培が行われました。令和2年からの栽培者は本格出荷が始まり、12月末時点で約23,000本が関西花き卸売市場に向けて出荷されました。作業効率が悪く耕作放棄地となりかねない条件不利地でも収益を生む土地になることが認識され、栽培者の生産意欲が高まったと感じています。

また、新規生産者確保に向けた説明会では6名の参加者のうち3名が次年度からユーカリ栽培を希望され、栽培開始に向けて個別に対応しているところです。

引き続き、関係機関と連携し、甲賀地域でのユーカリをはじめとするグリーン花材の定着と産地化に向けた支援を行っていきます。

朝宮茶有機栽培研究会の活動支援を通じた栽培面積の拡大

対象者 朝宮茶有機栽培研究会

【普及活動のねらい】

近年朝宮地域では、海外輸出を含めた有機栽培茶の需要拡大の動きを受けて、有機栽培茶生産を志向する農家が増加(令和3年現在12戸12ha)しています。しかし、それぞれの農家の販売先が異なるうえ、栽培技術もバラバラで、地域全体で有機農業に関する情報が共有できていない状況でした。そこで、有機栽培を志向する茶農家を中心に、信楽町茶業協会(以下「協会」という)や茶商、関係機関と連携して研究組織を設立し、有機栽培技術や有機JAS認証に関する情報を交換し、今後の有機茶づくりのあり方について検討を深めるとともに面積拡大を図っていくことをねらいとして、課題に取り組みました。

【普及活動の内容】

病害防除展示ほ(以下「展示ほ」)の設置

昨年度に、農家から有機茶栽培の課題を聞き取った結果、4戸の農家から病害が問題との回答があったことから、有機JAS認証で散布が可能な銅剤による防除効果を実証する展示ほを2か所設置しました。

朝宮茶有機栽培研究会(以下「研究会」)の開催

第1回研究会(11月)では、病害防除展示ほの結果や茶業指導所の研究成果報告の後に、昨年度課題となっていた茶商の研究会への参画を検討しました。

第2回研究会(12月)では、茶商2社が新たに参画する中、「有機栽培茶を活用した産地づくり」と題して、6次産業化プランナーによる講演会を開催しました。



第2回研究会の様子

【普及活動の成果】

展示ほでは、銅剤散布とせん枝の組み合わせにより病害が低減でき、実証結果については、第1回研究会において会員相互で共有されました。

第2回研究会の講演では、プランナーから有機茶の海外流通の現状や朝宮茶のPR方法について、数々の提言をいただき、今後の朝宮茶のブランド確立に向けて、検討すべき方向性が示されました。

また、研究会を通じ、仲間づくりが醸成されたこと等により、取組農家は1戸増え13戸に、面積も目標の12ha以上になることは確実となりました。

今後、プランナーから提案があった、海外輸出に対応出来る有機栽培茶を検討する機会や、有機茶サンプルの求評会、栽培技術向上を目指した研究発表会などの開催を予定しており、これらの活動を通じ朝宮地域での有機茶づくりの方向性を検討していきます。

当普及指導センターは今後も研究会活動を発展させ、朝宮茶のブランド確立に向けた取り組みを支援していきます。

オーガニック米の単収向上

対象者 甲賀市水口町 農事組合法人 S

【普及活動のねらい】

農事組合法人 S は、平成 23 年から有機栽培の米づくりにチャレンジされ、平成 28 年には有機 JAS 認証を取得、さらに令和 2 年度からは県オーガニック米の生産に取り組みられています。しかし、法人 S では、移植後の活着不良や初期生育の遅延、乗用除草機による苗の踏みつぶし等により令和 2 年産の単収は 10a あたり約 200kg と低収量が課題となっていました。

そこで当普及指導センターでは、オーガニック米の単収向上に向けて、健苗の育成や、苗の踏みつぶし対策として移植作業と中耕除草作業の作業工程の改善等について支援しました。

【普及活動の内容】

減収原因への改善策を施した実証ほの調査

減収への効果的な改善策を検証するため、健苗育成に向けた育苗管理の見直し、初期生育確保のための新しい施肥体系、田植機と中耕除草機が同じ行程をとる動線での作業の実施などの組み合わせによる改善実証ほを設置し、生育・収量調査を行いました。

中耕作業では実際の作業に立ち会い、踏みつぶしが極力生じない作業工程となるようオペレーターと動線を確認し実施しました。また、水管理や施肥について、法人と協議を重ねながら生育経過に応じた適正な栽培管理となるよう支援しました。



オーガニック米栽培ほ場

【普及活動の成果】

育苗作業の日程など育苗管理の見直しにより、健苗を育成することができ、移植後の活着や初期生育を改善することができました。さらに、太植えすることでその効果が高まることもわかりました。また、移植作業と中耕除草作業を同じ行程で行ったことで、苗の踏みつぶしを最小限に抑えることができました。その結果、欠株の減少や雑草繁茂が抑制され、後半の良好な生育に繋げることができ、収量は、目標としていた 10a あたり 300kg を大きく上回り、10a あたり約 350kg まで向上しました。また、オーガニック栽培に適した苗を育成すること、移植作業と中耕除草作業を同一行程で行うことの重要性を実感していただくことができました。

今後は、今年度の調査で効果的と判断された太植えやプール育苗等新しい技術の導入を試しつつ、単収向上に向けた栽培体系の確立と定着に取り組んでいきます。

トウモロコシサイレージの生産・利用体制の 整備による品質の向上

対象者 トウモロコシサイレージ生産農家、酪農家、コントラクター

【普及活動のねらい】

当管内では、平成 26 年度からトウモロコシサイレージの生産供給が開始されています。生産当初は小規模な面積で取り組まれていましたが、畜産農家の需要の増加に伴い、作付拡大を図ったことにより令和 3 年度には約 27ha となり、今後も作付面積の増加が見込まれています。しかし、近年の急激な作付拡大は、生産者の作業スケジュールが優先され、畜産農家の品質への要望やコントラクターの適期作業からズレが生じ、結果として品質低下が問題となっていました。特に、生産者の播種時期が極端に遅く、トウモロコシの熟度が進まないままコントラクターが収穫せざるを得ない状況を改善することが急務でした。

そこで、当普及指導センターでは、播種時期の調整、品種の選定、耕畜連携内の連絡体制の整備等、酪農家の要望に応じた品質の確保に向けて、耕畜連携組織全体の生産・利用体制の再整備を図ることを目的に支援を行いました。

【普及活動の内容】

適期播種に向けた栽培計画の樹立と計画の実践

酪農家の要望に応えるとともに、生産農家とコントラクターの作業スケジュールを考慮した播種時期や品種を検討・選定し、栽培計画を作成しました。また、生産農家に対し研修会の開催や現地指導を通して適期播種の重要性を指導するとともに、作成した栽培計画に基づき播種するよう働きかけを行いました。



収穫調製作業

情報共有ツールの作成・活用

作業の進捗状況等の情報を円滑に共有するため、耕畜連携組織 3 者が得たい情報を聞き取り、整理し、情報共有ツールとして LINE グループ「甲賀地域 耕畜連携」を作成しました。作成後はツールの利用促進を図るとともに、コントラクターと発信時期・内容を協議しながら、随時、適期に発信するよう指導しました。

【普及活動の成果】

生産農家に播種をできるだけ早くという意識を持っていただいたことから、適期播種が実践され、生育期間の確保とサイレージ品質の改善を図ることができました。また、普及指導センターとコントラクターが連携し、定期的に LINE グループ上で生育状況や収穫順、作業の進捗状況を発信したことで各関係者が現状確認できる体制を整えることができました。今後は、計画に沿った栽培を地域に定着させるとともに、今年度課題となった湿害・雑草対策等の改善策を提案・指導し、引き続き、品質向上と地域の新たな耕畜連携の体制の構築に向けて支援していきます。

話し合いから実践へ～集落営農の新たなチャレンジ～

対象者 甲賀地域の集落営農法人

【普及活動のねらい】

これまで、当普及指導センターでは集落営農法人に対して、多くの人の意見を効率的に集約することが可能なワークショップ手法の一つである「地域診断」を推進してきました。

「地域診断」では、地域や組織が抱える課題をテーマに意見集約を行い、組織継承のための若手の参画方策や、収益性の改善のための対策など、法人組織の構成員が納得できる戦略づくりと、その実践活動について支援してきました。

【普及活動の内容】

地域診断の実施と戦略の策定、実践支援

「地域診断」では、普及指導職員がファシリテータを務め、課題ごとに「できること」、「改善すること」、「導入するもの」について意見を出してもらい、出てきた意見をグループ化し課題整理を行いました。

グループ化された意見は、重要度と実施可能性で順位付けし、法人で取り組む実践項目をまとめました。さらにこのまとめ結果をもとに法人の理事会で今後の具体的な取組（戦略）について協議し、その合意形成を図りました。

樹立された戦略については、集落役員と連携し実現に向けてのアドバイスや技術改善指導などを行いました。



ワークショップによる話し合い

【普及活動の成果】

普及活動の結果、4年間で6つの法人（集落）が「地域診断」による話し合いを実施し、現在それぞれの法人で戦略に基づく実践活動に取り組まれています。

そのなかで、U法人（集落）では、「地域診断」で「田んぼアート」の継続実施、水稻の生産性向上について当面取り組むべき課題として整理され、改善に向けて実践活動に取り組まれています。

「田んぼアート」については、「しがのふるさと支えあいプロジェクト」の取組につながり、地元高校などからの支援を得る体制ができました。また、水稻の生産性向上対策については、堆肥施用による米の単収向上や、新たな米づくりとして「あいがも米」に挑戦されています。これらの取組により、今年度は米の単収が約3割増加するなど収益改善に向けて動き出しました。また、「あいがも米」は、「田んぼアート」のお付き合いから地元高校とのコラボが実現し「卵かけご飯セット」として販売されるなど、集落を大いにPRでき地域の活性化につながりました。

表彰事業受賞の概要

令和3年度滋賀県農林水産表彰

農林水産功労賞

甲賀市土山町 黒河 吉昭（くろかわ よしあき）さん

黒河さんは、甲賀市土山町鮎河集落において、近江の伝統野菜である「鮎河菜」を守り継ぐため、現在ただ一人の出荷者として昔ながらの方法にこだわり栽培されておられます。「鮎河菜」は収穫期間が短く、市場にほとんど流通していませんでしたが、黒川さんは、地域の伝統野菜を守るためにも生産、販売の強化が必要と考えられ、平成20年頃から鮎河菜栽培に取り組みました。また、毎年4月に開催される地元の「咲や鮎河桜祭り」では鮎河菜を使った商品の試食、販売を行い観光客にPRされているほか、地元直売所やネットでの販売、環境こだわり農産物の認証と独自出荷袋による生協出荷等の活動を通じて、広く鮎河菜の認知度向上に尽力され、伝統野菜「鮎河菜」の伝承に貢献されました。



この他、土山町鮎河緑化クラブ初代会長として、桜祭りや青土ダムでのこいのぼりの設置、緑化活動等の村づくり活動に尽力されました。青土ダムの湖上にたくさんのこいのぼりが泳ぐ風景は、現在も地域の一大イベントである土山マラソンの風物詩となっています。また、甲賀市で実施している都市農村交流事業において、都市部からの修学旅行の宿泊や農業体験の受け入れに尽力されました。こうした取組が高く評価され、この度の受賞となりました。

農林水産奨励賞

甲賀市信楽町 島津 真大（しまづ まさのり）さん

島津さんは、兵庫県出身で信楽町朝宮地域に移住される前はネパールでの長期滞在や、農繁期に援農ボランティアとして全国を行き来する生活をされていました。そうした中、朝宮地域出身の方との出会いをきっかけに、平成25年から朝宮茶の栽培に関わられることになりました。



次第にこの地域の魅力に心惹かれた島津さんは、平成26年に定住され、平成27年から、茶栽培の繁忙期に全国の援農ボランティアを招き入れ、茶作業を受託する組織「茶助」を設立されました。現在では、北は北海道から南は沖縄まで、全国から集まってきた20～40代

の男女10数名が参画されており、貴重な労働力として地域の茶業を支えています。

また、朝宮茶に魅了された島津さんは、平成29年に約70aの茶園を借り受け、Iターンでの新規参入という形で就農されました。就農当初は慣れない茶業経営で様々な苦労をされてきましたが、就農2年目には、滋賀県茶業コンクール荒茶品評会のせん茶の部で1等2席入賞を果たすなど、成果を挙げておられます。

思い切ってIターン就農するとともに、今までに地域で例がない外部労力を活用した作業請負組織の立ち上げから運営を主宰してこられた取り組みを踏まえ、今後の農業の担い手としての活躍が期待されるところであり、この度の受賞となりました。

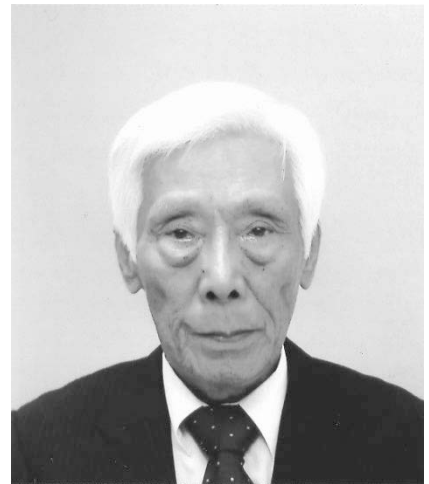
大日本農会 令和3年度農事功績者表彰

緑白綬有功章

甲賀市土山町 安井 敬一（やすい けいいち）さん

安井さんは、土山町において280aの茶園を経営されている茶専作農家で、昭和40年の就農以降一貫して土山茶の生産に従事してこられました。

安井さんは、昭和40年代に県内最大の頓宮開拓パイロット集団茶園の造成に関わられるとともに、当時開発された防霜ファンの集団茶園への導入に尽力され、地域茶業の経営安定化に貢献されました。また、地域に先駆けてかぶせ茶生産を開始され、平成14年の全国茶品評会で最高位の農林水産大臣賞を受賞されたほか、関西茶品評会においても農林水産大臣賞を3度受賞されるなど、かぶせ茶生産の第一人者として生産技術の向上と産地形成に貢献されました。さらには、土山町茶業協会長を平成16年から4年間務められ、平成17年には関西茶業振興大会、平成19年には全国茶まつりの地元開催に尽力されました。



こうした長年にわたる活動が高く評価され、今回、大日本農会の令和3年度農事功績者表彰において緑白綬有功章を受章されました。

令和3年度 表彰者一覧

表彰年月日	表彰名	部門	受賞名	受賞者・受賞組織	市町名
令和4年3月16日	令和3年度 農事功績者表彰	茶	緑白綬有功章	安井 敬一	甲賀市土山町
令和3年12月16日	令和3年度 滋賀県農林水産表彰	野菜	農林水産功労賞	黒河 吉昭	甲賀市土山町
令和3年12月16日	令和3年度 滋賀県農林水産表彰	茶	奨励賞	島津 真大	甲賀市信楽町
令和3年11月13日	令和3年度 滋賀県花き品評会	花き(きく)	農林水産大臣賞	山崎 容子	甲賀市水口町
令和3年11月13日	令和3年度 滋賀県花き品評会	花き(枝物)	農林水産省近畿農政局長賞	(農)酒人ふぁ～む	甲賀市水口町
令和3年11月13日	令和3年度 滋賀県花き品評会	花き(きく)	滋賀県議会議長賞	矢田 寿美代	甲賀市土山町
令和3年11月13日	令和3年度 滋賀県花き品評会	花き (球根切花類)	近畿花き振興協議会長賞	田中 美凧	甲賀市水口町
令和3年11月13日	令和3年度 滋賀県花き品評会	花き(きく)	日本花き卸売市場協会会長賞	林 隆裕	甲賀市土山町
令和3年11月13日	令和3年度 滋賀県花き品評会	花き(枝物)	全国農業協同組合連合会滋賀県本部長賞	(農)いいみちふぁ～ム	甲賀市水口町
令和3年11月13日	令和3年度 滋賀県花き品評会	花き(きく)	花卉園芸新聞社長賞	伴 武治	甲賀市水口町
令和3年11月13日	令和3年度 滋賀県花き品評会	花き(きく)	日本農業新聞大阪支所長賞	杉本 昌夫	甲賀市甲南町
令和3年11月13日	令和3年度 滋賀県花き品評会	花き(きく)	近鉄百貨店草津店賞	加藤 暢一	甲賀市甲南町
令和3年12月23日	滋賀県茶業コンクール 第46回荒茶品評会	せん茶	農林水産大臣賞	曾和 治彦	甲賀市信楽町
令和3年12月23日	滋賀県茶業コンクール 第46回荒茶品評会	せん茶	近畿農政局長賞	小山 嘉孝	甲賀市信楽町
令和3年12月23日	滋賀県茶業コンクール 第46回荒茶品評会	せん茶	滋賀県知事賞	山本 重和	甲賀市信楽町
令和3年12月23日	滋賀県茶業コンクール 第46回荒茶品評会	せん茶	滋賀県議会議長賞	立岡 啓	甲賀市土山町
令和3年12月23日	滋賀県茶業コンクール 第46回荒茶品評会	せん茶	公益社団法人日本茶業中央会長賞	辻本 浩二	甲賀市信楽町
令和3年12月23日	滋賀県茶業コンクール 第46回荒茶品評会	かぶせ茶	近畿農政局長賞	大谷 敬生	甲賀市信楽町
令和3年12月23日	滋賀県茶業コンクール 第46回荒茶品評会	かぶせ茶	滋賀県知事賞	安井 健人	甲賀市土山町
令和3年12月23日	滋賀県茶業コンクール 第46回荒茶品評会	かぶせ茶	公益社団法人日本茶業中央会長賞	立岡 啓	甲賀市土山町
令和4年1月22日	令和3年度「みずかがみ」および「環境こだわりコシヒカリ」食味コンクール	環境こだわり コシヒカリ	滋賀県知事賞	川村 克己	甲賀市甲賀町
令和4年2月2日	令和3年度 滋賀県果樹品評会	果樹(ぶどう)	滋賀県果樹組合連合会長賞	(農)酒人ふぁ～む	甲賀市水口町

参 考 资 料

山間部の茶園（朝宮）



甲賀の茶の生産振興を目指して

甲賀地域は、滋賀県内の荒茶生産量の9割以上を占める県内の茶産地です。平坦な地形を活かし、機械化が進んだ比較的大規模な経営の多い土山地域と急傾斜地において高収茶を主体に生産している朝宮地域の2つの特徴的な茶産地があります。

今回は、朝宮地域における有機栽培茶の生産拡大に向けた取組をご紹介します。

摘採最盛期（土山）

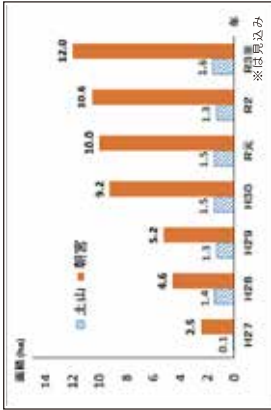


「朝宮茶有機栽培研究会」活動開始！

■ 朝宮地域における有機栽培茶の生産動向及び課題について

近年、朝宮地域では、海外輸出を含めた有機栽培茶の需要の拡大を受けて有機栽培茶生産を志向する農家が増加傾向にあります（令和2年実績12戸10.6ha）。しかし、販売先が異なるうえ、栽培技術もそれぞれ独自に取り組んでおり、朝宮地域全体で有機農業に関する情報が十分共有できていないことが課題となっています。

そこで、当課の働きかけのもと有機栽培を志向する茶農家12戸と信楽町茶業協会が、有機栽培技術や有機JAS認証に関する情報を交換し、今後の有機茶づくりのあり方について検討を深めるとともに面積拡大を図っていくことをねらいとして、「朝宮茶有機栽培研究会」（以下「研究会」）を設立されました。



甲賀地域における有機栽培茶面積の推移

■ 「朝宮茶有機栽培研究会」の活動について

研究会は令和2年9月に設立され、令和2年度は以下の活動を支援しました。

① 基調講演会

11月26日に、過去多くの有機JAS認証をサポートしてきた6次産業化プランナーの福井佑実子さんから、「コロナ禍での有機農業の情勢について」と題して講演をいただきました。

② 産地検討会の開催

有機JAS認証取得を目指す4人の農家において、取得に向けての取組や相互の協力体制等の検討を行いました（写真）。



産地検討会の様子(12/14)

③ 有機JASの取得に向けた相談活動

認証取得に向けた有機JAS規格への対応等の具体的な取組に関する相談会を開催し、令和3年4月には2名の農家が有機JAS認証を取得できました。

こうした活動を通じて、研究会の会員からは、「栽培技術の向上や販路開拓等を図り、朝宮の産地としての有機栽培茶を今後どのようにしていくのかを今すぐみんんで考える必要がある」との関心意識をもたれ、そこから、病害防除技術の現地実証や、12戸の有機茶を使ったPR用の新商品が作れないか等の朝宮地域の有機茶づくりについて議論を深めることができました。

当課では、引き続き研究会の活動を支援し、今後も有機茶の生産および販売に対する機運を盛り上げていきたいと考えています。

ユーカリ栽培にチャレンジしませんか

ユーカリは、銀灰色の葉が特徴的な、主に葉を楽しむ「枝物」と呼ばれる花きの中の1品目です。アレンジメントに、お稽古花材に、花束のグリーンや添え花に、様々な用途で利用される人気の花材です。
急増している需要に対して供給が不足していることから、花き卸売市場や大手フローリスト（実需者）から生産の提案を受けるとともに、強い期待もあつたことから、令和元年度から甲賀市内で試験栽培を開始し、令和2年度から本格的に栽培を推進しています。

■令和2年度の栽培事例から

令和2年度は、8戸の生産者により合計約1.3haで6品種のユーカリが栽培されました。5月末～6月上旬に定植され、その後の主な作業は、草刈、摘心、倒伏防止のための支柱立てを行いました。生育は概ね順調に進み、年末～年明け後の寒波のため、凍害が発生した品種がありましたが、株そのものが枯死することはなく全ての品種で冬を越すことができました。生育の早かった生産者は1年目から出荷することができ、1月～3月にかけて切り枝長30～80cmのものを出荷しました。10aあたりの市場出荷本数は約1,200本で、売上額は約48,000円（1本当たり単価10～150円）でした。また、10aあたり年間作業時間は約150時間（8月盆前出荷露地小ギク（約300時間）の半分）でした。市場関係者からは、「他県の先進産地と比べてもそんなに品質」と評価は良好でした。また、生産者からは、「冬場の農作業が落ち着いている期間に収穫ができる。本格的な収穫と出荷が始まる来年に期待している。」との感想をいただきました。令和3年度からの本格出荷に向けて、花市場との情報交換を行っているところです。



定植直後の苗



収穫作業の様子



出荷したユーカリ

■ユーカリ栽培のポイント

- ①日当たりと風通しがよく、排水性の良い土壌での栽培が適していますが、水利条件の悪い（水が入らない）ほ場や不整形で作業性が低い等、作付け条件の不利な農地での栽培が可能です。
- ②木本植物であるため、1度植え付けると数年間にわたり収穫できる有力な品目です。
- ③収穫できる期間が長く、作業の都合をつけやすいです。
- ④シカやイノシシなどの野生獣による芽や葉の食害が比較的小さい品目です。
- ⑤定植後しばらくの間は雑草にのまれやすいので、雑草対策は必要です。

様々な用途があり、根強い需要があるユーカリ栽培をぜひご検討ください。詳しくは、当課までお気軽にお問い合わせください。

滋賀県農業大学校のご案内

滋賀県立農業大学校（専修学校）では、近代的な農業を行うために必要となる高度な専門知識と技術を学ぶことができます。また、在学中に就職に必要となる各種資格の取得も可能です。本県農業を担う優れた青年農業者を養成する「養成科」（修業2年）と、就農に必要な技術と知識を修得するための「就職科」（修業1年）があります。

※詳しくは、農業大学校（0748-46-2551）、または当課までお問い合わせ下さい。

農大卒業生インタビュー



イチゴの苗の管理をする増田さん

「野菜の栽培や自分のやりたいことができていること、そう語るのには、滋賀県立農業大学校から甲賀市内で米や野菜を生産する有会社社からシオールファームへ「就職就農」された増田さん。野菜栽培を学ぶため2か月の研修に来たことが、シオールファームへの就職につながりました。

増田さんは「入学した当初は、農業の経験がないことから栽培技術の習得ができるか不安でした。しかし、農業大学校では座学や実習で農業を基礎から学ぶことができ、安心して就農することができました。加えて、同年代の農業を志す仲間とのつながりができたことが何よりも大きな収穫です。新型コロナウイルス感染症の影響で、同期生と以前のようにスノーボードやBBQに行けなかったのが残念ですが、今でも連絡を取り合っています。」と話されます。今では、イチゴをはじめとした多くの野菜の責任者を務めるほか、シオールファームの6人の若手社員が湖南市で設立した高糖度トマトを生産する株式会社ROPPPO（ロップポ）においても主カメムバーとして活躍されています。

今後も、大好きな野菜栽培を続けていくのが目標だそうです。これからのますますのご活躍が楽しみです。

“しがCO2ネットゼロ”への取組について



地球温暖化の進行に伴い、猛暑や豪雨のリスクが高まることが予測されています。滋賀県では、2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロ（＝ネットゼロ）にすることを目指し、2020年1月に、県民、事業者等多様な主体と連携して取り組む「しがCO2ネットゼロ”ムーブメント」キックオフ宣言をしました。農業分野では、下欄の取組等を行うことで地球温暖化防止効果が期待されています。

【排出量削減対策】 水稲の長期中干し（14日以上）による温室効果ガス発生量削減
【吸収源の確保】 ①家畜ふんたい肥の施用、②カバークロープによる土づくり、③有機農業の実施による農地土壌の炭素貯留量の増加

令和2年度、甲賀地域では環境こだわり水稲の生産において、2週間以上の長期中干しに約1,940haで取り組んでいただきました。これにより、通常の中干しでの栽培に比べ約4,000tの温室効果ガスの排出削減につながったと試算されています。引き続き、これらの取組拡大にご協力をお願いします。

この印刷物は、グリーン購入法適合用紙を使用しています。

発行 | 甲賀農業農村振興事務所
農産普及課
住所 | 〒528-8511
甲賀市水口町水口6200
電話 | 0748-63-6126
発行責任者 | 市井 広樹



地元産なしが直売所で好評！ 低樹高栽培で生産拡大中

平成25年から、関係機関の呼びかけで始まったなしの栽培は、法人経営体や定年婦農者を中心に拡大しています。最近では、農福連携での取組もみられます。直売所での販売量も年々増加しており、消費者からもたいへん好評です。



新しい技術でなし栽培を始めませんか 低樹高栽培と低コスト棚で早期成園化・軽労化

■ 苗木植え付け3年目で初収穫、5年目で成園化

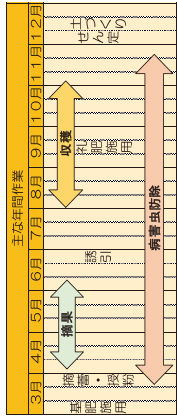
従来のなし栽培は、苗木の植え付けから成園に至るまで少なくとも7年は必要でした。しかし、低樹高栽培では3年目で収穫を開始でき、5年目で成園の収量の取量が得られます。高収益作物の導入でいち早く収益確保を目指す経営体や早期に収穫を開始したい定年婦農者等にお勧めです。

10a当たりの経営指標	
利益	時間当たりの利益
87万円	295時間
2,900円	

※県営ハンドブックに基づき低コスト棚導入を前提に試算



■ 栽培管理は手の届く範囲での作業が中心



← 苗木植え付け2年目の低樹高栽培、
次年度からの収穫を予定

低樹高栽培は、地面から1mの高さに配置した主枝と果実を成らせる結果枝で構成するシンプルな樹型です。従来のなし栽培では頭上にあつた棚面が、低樹高栽培では目の前に広がります。栽培管理は手の届く範囲での作業が中心で、脚立が不要で、身体への負担も少なく安全に作業ができます。また、せん定作業も結果枝の更新が主な作業となり、技術の習得も容易です。

■ 自力施工可能な低コスト棚で初期投資を軽減

低樹高栽培で用いる低コスト棚は、パイプハウスに用いる一般的な部材を使うことで自力施工が可能です。また、不整形のほ場の設置や、労力と資金に合わせて小面積の取組も可能です。

定年婦農を契機に3年計画で拡大した低コスト棚→

■ 甲賀地域なし栽培研究会で技術研鑽

技術習得は、栽培農家が参加する甲賀地域なし栽培研究会で定期的に研修会を実施してまいりますので安心です。栽培に関心がある方は当課までお問い合わせください。



集落環境点検を実施しませんか

〇集落環境点検とは

野生獣が里に出没するようになった背景には、里山の環境や人間のくらしの変化、野生獣の増加や活動域の拡大、人間の気付かない餌付けなど、その原因は地域によって様々です。集落環境点検とは、集落の皆さんと指導機関と一緒に獣害の発生原因を点検することにより、地域の問題点を整理・再認識したうえで、地域の実情に応じた対策を実施することを目的に行うものです。

〇甲賀市の事例

甲賀市水口町伴中山集落は、イノシシによる被害に悩まれており、令和2年6月に集落環境点検を実施されました。

・集落代表者と関係機関で点検

今回の集落環境点検では、集落代表者と県の獣害担当者、集落のほ場や集落への侵入場所を巡回し、柵の管理状況や侵入経路を確認しました。後日、勉強会を開催し、巡回した点検結果を共有するとともに、イノシシの生態や改善策の提案内容について説明・紹介しました。

・対策により被害が激減！

集落環境点検を実施した後、集落では侵入防止柵に加えて、イノシシの侵入防止効果のある目隠し資材（ネット）を設置するとともに、柵の周りの定期的な草刈りや破損箇所の補修を実施されました。それにより、これまで、年間65万円程の農作物被害があったのが、対策実施後は、ほとんど発生しなくなりました。

獣害にお困りの集落の皆様、集落環境点検を実施し、具体的な対策につなげていきませんか。点検の詳細については当票までお問い合わせください。

滋賀の「おいしい」が丸わかり！！

「食」の情報発信サイト「滋賀のおいしいコレクション」



「食」の情報発信サイト「滋賀のおいしいコレクション」では、近江米や近江牛、旬の農産物など様々な「滋賀のおいしい」を発信中！！

生産者や産地の紹介、滋賀の食材を買い求める・楽しめるお店などの検索機能も充実しています。

「滋賀のおいしいコレクション」ぜひ一度ご覧ください！

<https://shigaquo.jp/>

滋賀のおいしいコレクション



検索

濁水防止！田植えまでの基本技術

毎年、4月中旬から5月下旬の代かき、田植えの時期にかけて、水田から流れ出た濁った水が河川に流れ込み、琵琶湖の濁りの原因となっています。水稲を栽培されている全ての農家の皆さんが、下の基本技術を再確認し、農業排水対策に取り組んでいただきますようお願いいたします。

- 丁寧な均平作業
- 畦、排水口の漏水対策
(畦の亀裂や穴を補修、止水板の設置)
- 浅水代かきの実施
(土が7〜8割見える状態で代かき)
- 代かき前、田植え前は水を落とさない
(計画的な作業により強制落水をしない)



浅水代かき

被覆肥料殻の流出防止

水稲の基肥一発肥料などの緩効性肥料の多くは肥料成分がプラスチックの殻で覆われています。このプラスチックの被覆殻が、水田から河川を通じて琵琶湖に流れ込むことがあり問題となっています。そこで、県やJANなどでは、自然界で微生物などに分解しやすい生分解性プラスチック肥料の実用肥料やプラスチックを使わない緩効性肥料の実用化に向けて試験を実施しています。



水田の端に吹き寄せられた被覆殻

★甲賀地域の農業・農村関連情報を発信しています！

当事務所では、今年度から新たにFacebookとInstagramを開設しました。

名称は「アグリウィンド こうか」です。

「アグリウィンド こうか」では、甲賀地域の農業・農村風景や農業・農村に関するタイムリーな地域の関連情報を掲載しています。SNSを通して、甲賀地域の農業を身近に感じていただけるよう情報を発信していきます。



Facebook



Instagram

令和3年度 普及現地情報 (令和4年1月末時点)

番号	発行日	タイトル
1	4月20日	ユーカーリ新規栽培者への研修会を開催
2	4月26日	令和元年度滋賀県青年農業者プロジェクト発表大会の表彰式を開催！
3	5月7日	農家自ら「濁水流出防止」を呼びかける
4	5月7日	なしの予備摘果研修会を開催
5	6月16日	需要に合わせた出荷に向け中輪ギク栽培研修会を開催
6	6月16日	土山小学校3年生が校内茶園の製茶に挑戦！
7	6月23日	畦畔へのグランドカバープランツの定植
8	7月12日	認定新規就農者等を対象としたイチゴ研修会を開催！
9	7月15日	果樹の新規栽培者発掘のための研修会の開催
10	7月30日	加工用中輪ギク出荷研修会を開催
11	8月10日	甲賀地域青年農業者プロジェクト活動中間検討会を開催！
12	8月26日	「忍葱(しのぶねぎ)」栽培研修会開催
13	9月1日	キュウリ栽培におけるICTバルブを利用した自動葉水の導入
14	9月1日	クワシロカイガラムシ防除と土壌診断の研修会を開催
15	9月14日	イチゴ栽培研修会を開催！
16	9月15日	飼料用トウモロコシの収穫が始まりました
17	9月29日	タマネギ直播栽培の検討について
18	10月25日	大原小学校の3年生が茶工場を見学
19	11月4日	高校生が地元の先進農業者の経営について学ぶ
20	11月5日	ユーカーリ出荷研修会を開催
21	11月5日	令和4年産契約タマネギ栽培研修会を開催
22	11月11日	滋賀県茶業コンクール荒茶品評会が開催されました
23	11月22日	令和3年度第1回朝宮茶有機栽培研究会を開催
24	12月6日	「古い茶工場」の説明に土山小学校6年生が挑戦！
25	12月7日	「忍葱(しのぶねぎ)」出荷始まる
26	12月7日	茶生産青年が茶鑑定審査技術の勉強会を開催！
27	12月21日	令和3年度第2回朝宮茶有機栽培研究会を開催！
28	12月21日	令和3年度有機栽培茶求評会が開催される
29	12月28日	「しがの農業経営塾」卒業生との交流会を開催しました！
30	12月28日	獣害対策出前講座を開催
31	12月28日	令和4年産加工業務用タマネギの取組
32	1月17日	高校生が就農青年と交流！農業の魅力について学ぶ！

令和3年度普及活動実績集
だから好きですがんばる甲賀の農業
2022年（令和4年）3月 発行

滋賀県甲賀農業農村振興事務所農産普及課
甲賀農業普及指導センター
〒528-8511
滋賀県甲賀市水口町水口6200番地
<http://www.pref.shiga.lg.jp/minakuchi-pbo/nogyo/>
E-mail:ga30@pref.shiga.lg.jp

★甲賀地域の農業・農村関連情報を発信しています！

当事務所では、今年度から新たに Facebook と Instagram を開設しました。

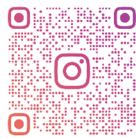
名称は「**アグリウインド こうか**」です。

「アグリウインド こうか」では、甲賀地域の農業・農村風景や農業・農村に関するタイムリーな地域の関連情報を掲載しています。

SNS を通して、甲賀地域の農業を身近に感じていただけるよう情報を発信していきます。



Facebook



Instagram

